

5 冷たい溪流で春を待つ

ナガレタゴガエル

下山 良平

1990年に新種として認められる

タゴガエルに近縁なアカガエル科のカエル。体長40～60mm。標高500m以上の山地に生息します。赤褐色の体色、のどから腹部にかけての細かな黒点など、タゴガエルにそっくりです。実際、タゴガエルと長い間混同されてきました。新種として正式に発表されたのは、1990年のことです。

上伊那では、中央アルプスを流れる中田切川の中流部で記録されています。おそらく他の溪流でも生息しているものと思われます。



下山良平 撮影

ナガレタゴガエル越冬場所

特異な外部形態

タゴガエルとの大きな違いは、タゴガエルの後肢の水かきは発達が悪いのに対し、本種では恐ろしいほどに水かきが発達していることです。

しかし、このカエルの最大の特徴は、越冬期の外部形態です。このカエルは晩秋になると、繁殖場所となる溪流の中へ移動し、そのまま翌春まで溪流中で過ごします。

越冬期以外には、ごく普通のカエルと同じような体型をしています。しかし、

溪流中で過ごす越冬期になると、雌雄とも脇腹や後肢太ももの皮膚が異常なくらい伸張します。そのため、全身がビロビロ、もしくはブヨブヨの異様な姿になるのです。

そうした姿は、絶対に生きているカエルには見えないことでしょう。まるで流れの底に枯れ葉が沈んでいるかのようです。



下山良平 撮影

5月のナガレタゴガエル



清水義雄 撮影

越冬期のナガレタゴガエル



清水義雄 撮影

5-1

別の個体

水中生活への適応

成体や幼体は、春から秋にかけては森林の林床で生活します。晩秋、11月頃になると、越冬のために溪流の中に移動します。彼らの生息地である山間の林床は、冬期にはかなりの深さまで凍結してしましますが、どんなに気温が下がっても流れの中は常に0℃以上あるので、変温動物である彼らには安全な越冬場所になるでしょう。

翌春までの数ヶ月間を、溪流の中で過ごすわけですが、先に述べたようなビロビロ・ブヨブヨな姿は、そうした水中生活への適応だと考えられます。水中で過ごす期間は、彼らは肺呼吸が出来ません。かといって、えらがあるわけでもありません。もっぱら皮膚呼吸で生命を維持するのです。その際、皮膚がビロビロに伸張することは、皮膚の表面積を増やすことになり、皮膚呼吸に大いに役立つこととなります。



西尾規孝 撮影

越冬個体

春先に人知れず繁殖

3月から4月になって水温がおよそ4℃を上回るようになると、そのまま溪流中で繁殖活動が始まります。他のカエルと同じで、メスに比べてオスの数が圧倒的に多いので、オスの間では激しいメスの奪い合いが起こります。このとき、オスは

盛んに鳴いているらしいですが、陸上にいる私たちにはその声は届きません。

めでたくできあがったペアは、溪流の中を流れ下りながら、産卵場所を探します。そして、流れの緩い場所の石下に産卵します。卵の大きさは約3.5mmで、1匹のメスは50~170ほどの卵を産みます。

孵化した幼生は、その年の初夏には早くも変態して陸上生活を始めます。



下山良平 撮影

容器内に産みつけられた卵塊



下山良平 撮影

卵塊のアップ